



さわやかな秋に学ぶ!

企業を訪ねて



館報 あもり

発行所
長野市立安茂里公民館
電話 226-4059
発行人 新見 宏司
発行月 5.7.9.11.1.3月
(株) 信光社

安茂里地区 世帯数と人口 (10月1日現在)	
世帯数	9,129戸
総人口	20,596人
男	9,900人
女	10,696人

スポーツの秋、行楽の秋、食欲に読書の秋と…何をするにしても良い季節。10月15日、20人が参加して今年2回目の「企業を訪ねて」が開催されました。コロナ禍の最中、受け入れてくださった企業に感謝です。

信越車体

現代社会の流通に欠かすことのできない大型貨物車両、そのほか重機やトラックといった働く車たちの整備・点検を専門に行う修理工場です。トラックは車本体と荷台部分に分かれ、それぞれが全く違う会社で製造し、最後に合体させて完成すると聞いて「知らなかった」という参加者も、クレーン車など普段あまり見られない車もいて皆さん珍しそうに説明を聞いていました。

長野フルーツセンター

フルーツセンター(選果場)はリンゴの季節を迎えています。ここも機械化の波が押し寄せベルトコンベアの上

をリンゴが次々に流れていました。果物が豊富な信州ですが、やはり信州を代表する果物といえば「りんご」で異論はないはず。種類も昔に比べると本当に多くなりました。皆さんの好みはどの種類でしょう?これからは信州リンゴの横綱「ふじ」の登場です。

Dankセキ

若い社長の案内で製本の過程を見学しました。普段何気なく見ていた手帳や写真集などが実際にどのように出来上がるかを間近に見て回りました。分厚い紙の束も容易に裁断してしまう機械や16ページ分を一気に折りたたんでしまう機械など色々な機械があると思えば、どうしても人の力を借りなければならぬ部分もあり皆さん普段目にすることがない工場に興味津々でした。

ベジドリーム

今回、最後に訪ねたのが野菜の水耕栽培を始めて20年という若穂にあるベジドリームさん。常に10種類前後の野菜を育て、この業種では県内で最大規模だそうです。地元はもちろん首都圏や中京圏などに出荷しているそうで訪ねたときは焼肉用のサンチュやセロリ、パクチーなどが青々と育っていました。

杏仁

今年も残すところあと2ヶ月、信州の自然に目を移せば木々の色づきは標高の高い山々から里の方へと下り、季節は秋から晩秋の装いへと移り始めています。そして、この「館報あもり」もこの号が今年最後の発行となってしまいました。

「えっ、もうそんな時期なの」と、改めて時の流れの速さに驚かされると同時に、今年もコロナ、コロナとコロナに振り回された一年であったと痛感してしまいます。いまの日本でこんなことが起きるのかと思われた「医療崩壊」、一時は13万を超える人が自宅で療養となり医療を受けたくても十分な医療を受けられない現実を突きつけられました。死者もいつの間にか東日本大震災とほぼ同数となり、未知の感染症に直面した時の恐ろしさを実感させられています。そんな中で今一番心配されるのが成人式。去年の成人の皆さんには例年とは異なる動画配信という形での成人式になってしまい、コロナを本当に恨めしく思ったものです。今後第6波が心配されています。今年こそ成人を迎える若い人たちが地区全体で祝ってあげることができていきたいと思います。

公民館講座 の紹介

芸術の秋に感極まる 「フルートの調べ」

上田女子短期大学非常勤講師

杉山 由一

に一生懸命演奏してくださいました。楽曲もクラシックからポップス・演歌まで幅広く構成していただき参加した皆さんもこのひと時だけはコロナのことを忘れ、先生のフルートの世界に浸って一足早い芸術の秋を楽しんでいました。そして参加した全員が音楽の素晴らしさを再認識した講座となりました。



しかし、父の心配をよそに一茶は江戸で奉公勤めをしながら俳諧の道で名を成すようになり、29歳になって14年ぶりに柏原に帰ってきました。講座はその帰郷の様子を描いた前衛俳句の旗手・金子兜太さんの「初旅・寛政三年紀行」を題材に進められました。中山道を下って軽井沢に入り、追分から北國街道を一路信濃町を目指した一茶、丹波島の渡しが犀川の増水で使えず小市の渡しを利用する一茶の様子やその時残した句についても勉強しました。そして14年ぶりに故郷柏原につく一茶の姿を想像しながら、参加者は当時の街道の様子や一茶の心情に思いを馳せていました。

文学講座 29歳の一茶 14年ぶりに故郷柏原へ

日本文学研究家

堀井 正子

15歳にして少年・一茶は柏原を発ち江戸の町へ向かいます。父は共に歩きながら途中まで送っていくものの、未練断ち難くいつの間にか傘礼の辺りまで来てしまいます。いまでいう中学生の息子をひとりで奉公に出す父の心情を思うとついつい同情してしま

◎アンチエイジング講座 メイク編

8月25日(水)、コーセー

化粧品長野支店美容アドバイザーの會津治香さんと坂本由香子さんを講師にお迎えして、「メイク講座」を開催しました。

上げると、ご自身の変化に驚きと喜びの声があがりました。「せっかくなので帰りたい♡」と寄り道して帰りたい♡という方も。講座終了後は、皆さん満面の笑顔でお帰りになりました。今回のメイク講座を通じて、皆さんの心が豊かになるお手伝いが出来たなら幸いです

「イキイキとした印象になるメイク」をテーマに、受講者の皆さんにマスカラ1本で印象が変わる目元のメイクアップを体験していただきました。

まずは、肌や瞳の色からその人に似合う色を知るためのパーソナルカラー診断を行いました。自分に似合う色を使うことで肌が綺麗に見え、明るい印象を与えるそうです。

診断結果が出たら、各々適している色のファンデーション、アイカラーを使い、マスクをしたままメイクをしていきます。一日中上向きまつ毛を作るマスカラの使い方や美人眉の描き方などを教えていただき、受講者は鏡と向き合いながら熱心に耳を傾けていました。最後に眉マスカラで仕





安茂里公民館の生活文化講座「ブラ アモリ」の二回目
が、9月22日に行われた。

今回は安茂里地区でも中央部分に当たる久保寺で、当日はこの氏神犀川神社秋の大祭と重なり、各ムラには幟が立てられ祭りの雰囲気を感じる見学会となった。

東寄りの差出北から旧大町街道に沿って西に進み西河原の犀川神社までを回った。差出北公民館では、閻魔様について地元の青沼氏から説明を受ける。公民館に立ち寄ったのは、ここ差出北にはじまり大門、小路、西河原と、地区公民館でありながらそこが以前はお堂であったことを確認するためであった。近世の時代からムラ人が心のよすがとして崇敬し守ってきた信仰の場所が、現代ではムラの教育や文化のよりどころとして公民館を併設し、ムラ人の寄合所となっていることは再認識しておきたい。古くはここで

ムラ事の話し合いもされてきた、中心の場所であった。

差出北では8月下旬の御射山様の祭りには、杏花台団地最上部の山の神祭りに子ども達が地区内を神楽の曳き回しをし、青茅で作った茅箸でご飯を食べて無病息災を願った。

次に安茂里小学校により、昭和二年に建てられた「赤心館」を見る。赤―赤尾善治郎、心―赤尾の故郷を想う心、を表して命名したもので、差出に生まれ苦学の末にアメリカに渡り「花ござ」を輸出して大成をとげた彼が、老朽化した安茂里小学校の建設費用を寄付したものである。アメリカでは土足でカーペットに上がる習慣から室内の汚れがひどく、花ござだと掃除も楽で汚れも簡単に拭き取れることから大人気となった。先見の明がある赤尾の行動は、大正期の経済繁栄に乗って莫大な利益を得たのであった。学校前の銅像とともに、赤心館の存在は地域の宝として語り伝えていきたいものである。

大門第一公民館脇の赤地藏、道標を見ながら正覚院をめざす。大門公民館内の大日様前では、今では珍しくなった数珠回しが行われている。一時

廃れたものの再開し、現在もムラの老若男女が一堂に会して行う風景には地域の絆を感じ、子ども達にとっても貴重な体験となっている。

正覚院参道は長く急坂のため大変であるが、両脇の土手には朱色の彼岸花が咲き乱れ秋彼岸の風情を満喫させた。

正覚院は4月18日の「窪寺観音祭り」として長野春の三大祭りの一つであり、長沼の西厳寺、若槻蚊里田八幡宮の祭りとともに盛大に行われる。当日夜には墓地内で花火が上がる。ミュージック花火は、音楽に合わせて石塔の間隔から打ち上げられ見事な花火の競演が見られる。

正覚院の前身は月輪寺といひ、ここから安茂里小学校西側辺りまでに広がる大伽藍があった。寺伝では天安二年(八五八年)慈覚大使円仁の開創といひ川中島合戦の折に焼失したともいわれるが、元和元年(一六一五年)に西後町の正覚院無量寺と合流した。現在は正覚院月林寺と称する古刹である。ここには県宝の木造伝観音菩薩立像(十一面観音菩薩立像)があり、寺内山寄りの円通殿には千手観音も祀られている。

正覚院の西には窪寺城址があり、室町時代の土豪の一人窪寺氏の館跡もある。ここから見下ろす善光寺平の眺望は素晴らしく、応永六年(一三九九年)に小笠原長秀が信濃守護に就いたが圧制のため、東北信の土豪が反抗して篠ノ井大当を戦場とした大塔の戦いの折、窪寺城で蜂起の合議をした場所として知られる。

窪寺城址を巻いて犀川神社に入る。当日は秋の例大祭の本祭りであるが、コロナ禍のため県指定無形民俗文化財の杜煙火の打ち上げもなく、市指定の選択無形民俗文化財の太々神楽のみが、しめやかに奉納され、夜には打ち上げ花火が上がった。杜煙火は文政七年(一八二四年)日吉山王社が犀川神社と社名変更した際に、地元住人による竹筒煙火を奉納したのが起源とされ、保存会を作って技術を伝承してきた。

大鳥居横のササグラは近世期にはムラの年貢米を保管しておく蔵であったが、今は区の大事な財産を保管する場所で、宮本の神楽もここに保管している。当日は丁度神楽の準備を鳥居前でしている最中

で、一同祭りの雰囲気味わうことができた。

最後に大田沢川に掛かる赤地藏と道祖神を見て終わりましたが、参加者からは地元にながら知らないことがたくさんあって勉強になったとの声が多くあった。

次回11月17日(水)の三日目の「ブラ アモリ」は小市地区を予定している。

(元安茂里公民館長 多田井幸梶)



長寿を祝う

安茂里地区老人クラブ連合会

9月24日、安茂里地区老人クラブ連合会の秋季大会が開かれ今年度の慶賀者の皆さんが表彰されました。

今年、安茂里地区ではダイヤモンド婚7組、金婚13組のご夫妻が、個人では白寿の祝いを4名の方が、米寿を48名の方が迎えられ、この日はこのうちの10組のご夫妻と米寿を迎えられた14名の方がご出席されました。式では長野市老人クラブ連合会を代表して安茂里地区の篤会長から皆さんにお祝い状と記念品が贈られました。これからも皆さんが仲良く、ますます健康で元気に過ごされることを願っています。



コロナ禍でも光り輝け！

イルミネーション

9月25日、地区の役員、長野工業、高校生、裾花中の生徒たちあわせて100人あまりが西部市民センターの広場に集まって今年のイルミネーションづくりが行われました。老いも若きもが一緒になって一つのものを協力して作り上げていく。言葉でいうと綺麗だが、年寄りには高所の作業もあって大変！若者たち一人分を二人・三人がかりで奮闘します。作業を始めて約3時間、だいたいの形ができあがり仕上げをゆつくりと1か月近くかけて行いました。そして10月22日午後5時半、関係者が見守るなか今年のイルミネーションが無事点灯されました。コロナ禍で暗くなっている世の中が少しでも明るくなればと……。



成功へ力を結集、私たちの成人式

「宜しくお願ひします。チャームポイントは明るいとことです。」

10月9日、安茂里地区成人祝賀式の第1回運営委員会が開催されました。

本年度成人式に参加予定の男性2名、女性3名、教育文化部会4名、安茂里公民館2名の合計11名が参加して行われました。メンバーの顔合わせ的な意味合いと、昨年度の成人式が人数を制限してリモートで配信したという事を踏まえ、本年度どのように開催していくのか活発に意見交換を行いました。

成人式は一生に一度の行事であり、しばらく離れた友人と会う絶好の機会。コロナに悩まされる中ではありますが、みんなで協力して一生に一度の式典を成功させましょう」と誓いあいました。良い成人式にしたいという思いを感じた時間でした。



豊かな生活 育てましょう
安茂里公民館 226-4059

生活文化講座

◎「ブラッパモリ」

「ふるさと再発見!!」③

講師 多田井 幸視
日時 11月17日(水)
午前9時

(時間変更になっています)

定員 10名
申込 10月27日(水)

◎ジャズに魅せられて

講師 モダンデュークス
日時 11月25日(木)
午後1時30分

定員 30名
申込 11月2日(火)

◎お正月まで飾れるクリスマス

のフワアレンジメント

講師 戸津 泰征
日時 12月21日(火)
午前10時

持ち物 エプロン、タオル
花バサミ、軍手、

申込 12月2日(木)

※申し込み時間は各講座とも午前8時30分からです。

新刊のご案内



書名	著者名	発行所	出版年
月下のサクラ	柚月裕子	徳間書店	2021
私のいちばん得意な料理、教えます		家の光協会	2021
かえるくんとあたらしいおともだち	鈴木真実	講談社	2021
リボルバー	原田マハ	幻冬舎	2021
黒牢城	米澤穂信	KADOKAWA	2021
おばけとかくれんぼ	植垣歩子	ほるぷ出版	2021
罪の因果性	横関大	KADOKAWA	2021
万事快調 (オール・グリーンズ)	波木銅	文藝春秋	2021